

令和元年度新宿区外部評価委員会第3部会 第8回会議概要

<開催日>

令和元年8月19日（月）

<場所>

本庁舎3階 302会議室

<出席者>

外部評価委員（5名）

山口道昭、岸本幸子、小菅知三、田中健士、横倉泰信

事務局（4名）

金子行政管理課長、池田主査、吉江主査、原田主任

<開会>

【部会長】

皆さん、おはようございます。

ただ今から、第8回新宿区外部評価委員会第3部会を開催します。

本日は、評価の取りまとめとして、個々の事業の評価を踏まえて、個別施策に対する意見の取りまとめを行います。

それでは、前回に引き続き、個別施策Ⅰー8「地域の課題を共有し、ともに考え、地域の実情に合ったまちづくりの推進」について評価の取りまとめを行います。「外部評価チェックシート」（施策評価、計画事業評価、経常事業取組状況）を基に、部会としての評価の取りまとめを行います。指名された委員は、ご自分の評価や意見の補足説明等をお願いします。

本日は、前回の残りとして、経常事業に対する意見の整理と、施策評価として、個別施策Ⅰー8「地域の課題を共有し、ともに考え、地域の実情に合ったまちづくりの推進」について、評価の取りまとめを行います。

まず、経常事業について、意見の取りまとめを行います。意見のある経常事業について、順番にご意見をお願いします。

【委員】

経常事業299「コミュニティ推進員の活動」についてです。

コミュニティ推進員の役割や業務がどのようなものなのか、あるいは、今後どのようなものになるのかということが分かりにくいと感じました。地域には、町会や青少年育成委員会など様々な団体がありますので、コミュニティ推進員の役割をもう一度見直し、地域の団体の円滑な活動の中で活躍してほしいと思います。

【委員】

コミュニティ推進員は、地区協議会の発足に合わせて、広くコミュニティ活動の効果的な推進に寄与するために活動している職員であると認識しています。しかし、地区協議会の制度変更により、区が行う専門性の高いコミュニティ活動の支援というコミュニティ推進員の本来の活動が減っているのではないかと感じています。

コミュニティ推進員は、地域のコミュニティ活動を推進するという役割を担っていると思いますので、本来の目的に沿って活躍できるような場がきちんとあるのか懸念しています。コミュニティ推進員の役割を明確にし、より有効に活用できるよう見直していく必要があるのではないかと思います。

【部会長】

これはヒアリングの中でも議論になったことかと思います。コミュニティ推進員は、現在、非常勤職員という位置付けですが、令和2年4月からの会計年度任用職員制度の開始により、位置付けが変更されることとなります。そのため、コミュニティ推進員の役割、業務内容については、今後、整理し明確化していくということになっており、具体的には、まだ検討中であるとのことでした。

今のご意見は、現在のコミュニティ推進員の活動状況がどのようになっているのか、現在の状況に問題があるのではないかという内容かと思います。今後の会計年度任用職員への制度移行を機会に、地域のコミュニティ活動をより一層推進するような業務に携われるようにしてほしいということを意見としてまとめていけば良いのではないかと思います。

【委員】

コミュニティ推進員については、重要な課題を抱えている事業だと思います。経常事業取組状況シートの「取組状況」も「改善が必要」としており、私もコミュニティ推進員の役割、業務内容については、改善していく必要があると認識しています。

具体的には、先程のご意見にもありましたように、やはり、コミュニティ活動の総合支援ということができていないような状況になっているのではないかと思います。この点については、外部評価として、しっかりと意見を付していくべきだと思います。

【部会長】

所管課も業務内容の明確化を図る必要があるとしていますが、どのような業務内容なのかということが重要ではないかと感じました。ですので、その点について、行政だけで決めていくのではなく、町会・自治会等の対象者の意見も聞いて検討していくことがあっても良いのではないかと思います。

では、経常事業299「コミュニティ推進員の活動」については、今出たご意見を中心にまとめるような形でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

では、ほかにご意見のある経常事業がありましたらお願いします。

【委員】

経常事業301「地域コミュニティ事業助成」についてです。

地域コミュニティ事業助成については、公平性、中立性、公益性ということを基準に第三者の審査を経て実施していますので、その意味では、適切に実施しているのだと思います。

しかし、実際に実施している事業としては、餅つき大会、盆踊り、ラジオ体操、バス旅行など、これまで町会・自治会や地域の団体が基礎事業としていた事業に上乘せするような形の事業が多いのではないかと感じています。そのような事業に対して助成を行うということについては、地域コミュニティ事業助成の趣旨から少し離れているのではないかと思います。

やはり、地域全体として緊急の課題、例えば、高齢者の問題、子どもの問題、防災の問題などの課題について取り組んでいく事業に対して、積極的に助成していくべきではないかと思えます。地域コミュニティ事業助成の本来の趣旨である地域全体の課題解決のために、助成をしてほしいと思います。

【委員】

地区協議会の制度変更により助成金の制度も変更に至ったと認識していますが、盆踊りや親睦旅行などを含め、助成がなくても行うことのできる既存の町会の地域親睦活動に助成金が使われているという実情があるのではないかと思います。

地域課題の解決ということを考えずに、地域の親睦を深めるためのイベントに対する助成金という性格が高くなってしまっているのではないかということ懸念しています。助成金がきちんと地域課題の解決に向けた取組に効果的に使われているのか、助成対象の内容を検証する必要があると思います。

助成金がきちんと持続可能なコミュニティ活動に対して活用されるよう、3年ごとの助成制度の見直しも必要であると思えますし、見直しをするとともに、どういう対象にどのような事業に対して助成するのかということもきちんと明確にしていくべきではないかと思えます。

【部会長】

予算の執行率が51.4%と低いことも課題として挙げていますが、この点をどのように考えるかということもあるのではないかと思います。つまり、予算の執行率が低いのであれば、助成事業自体を縮小すればよいのではないかという考え方と、予算の執行率を上げるために新たな団体や事業を開拓していくという考え方があるのではないかと思います。事業の方向性として、どのように考えるべきなのかということが重要ではないかと思えます。

【委員】

現状の取組を否定しているわけではありませんが、地域の親睦を深めるようなイベントに対してのみ助成をしているような状況では、地域コミュニティを維持していくことにはつながらないのではないかと思います。

部会長のご意見のように、やはり新しい取組や持続可能なコミュニティ活動というものに対して助成していく必要があるのではないかと思います。

【部会長】

予算の執行率ということを前提に考えるのであれば、これまでの事業に対して助成を行っていくとともに、新たな事業についても開拓していく必要があると言えるのではないのでしょうか。また、先程の経常事業299「コミュニティ推進員の活動」の議論と同じで、3年ごとの助成制度の検証、見直しに当たっては、行政だけで行うのではなく、対象者や関係者等の様々な意見を聞いていく必要があると思います。

では、経常事業301「地域コミュニティ事業助成」については、今出たご意見を中心にまとめるような形でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

では、ほかにご意見のある経常事業がありましたらお願いします。

【委員】

経常事業302「掲示板の維持管理」についてです。

回覧板というものがなかなかうまく機能しなくなっている中で、掲示板は、地域の動きや情報をタイムリーに知ることができる手段であり、大変に有益な取組だと思います。

地域の情報伝達手段として最適な方法だと思いますので、今後も是非続けていただきたいと思います。

【委員】

同じ意見になりますが、掲示板は、情報伝達手段としてかけがえのないものになっていると思いますし、新宿区は掲示板が非常にきちんと整備されていると思いますので、高く評価すると同時に今後も継続、発展していただきたいと思います。

【部会長】

ありがとうございます。

では、経常事業302「掲示板の維持管理」については、今出たご意見を中心にまとめるような形でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

では、ほかにご意見のある経常事業がありましたらお願いします。

【委員】

経常事業304「地域センターの管理運営」についてです。

地域センターの管理運営委員会のメンバーは、町会などの役員を兼ねている場合が多くあり、改善要望などを言い出しにくい場合もあります。そのため、あまりしがらみのない民間事業者の導入を検討していただければと思います。

もちろん、地域自治という観点から、地域センターの管理運営を地域住民で行うということが大事であるということとはよく分かりますが、そのことと利用者の使いやすさということとはまた別の問題ではないかと思います。

【委員】

先日、地域センターに行ったときに私が感じたことですが、自主事業イベントの事前紹介や参加者募集の記事などについて、地域センターのホームページでほとんど公開されていない状況があるのではないかと思います。地域センターに来館しないと分からない情報が多くあるような状況ですので、きちんと情報を周知するという努力をしていく必要があると思います。

地域の人たちで運営している中で難しいのであれば、その点について区が支援する、あるいは、先程のご意見のように民営事業者を導入するというのも考えていく必要があると思います。公共サービスをしっかり提供し、地域活動の拠点として地域センターを運営していくのであれば、地域住民で運営していくということが果たして良いのかどうかということを考える必要があるのではないかと感じました。

【委員】

地域センターを運営していく仕組みとして、今後も地域住民が担っていくということが適切なものかどうかということかと思えます。

指定管理者に委託していますが、本来、区のサービスとしてあるべきものが十分に機能しないような状況であれば、民間事業者の導入を検討することは当然だと思いますし、地域住民が運営していくに当たっては、人材不足ということが課題としてあります。

【部会長】

今出たご意見を踏まえて考えると、経常事業取組状況シートの「民間事業者の導入も視野に入れて検討を進めていきます。」という点について、より積極的に検討してほしいという意見としてまとめられるのではないかと思います。そのような形でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

では、ほかにご意見のある経常事業がありましたらお願いします。

【委員】

経常事業305「地域センター受付システムの運用等」についてです。

地域センターの利用に当たっては、まず、地域センターに直接行って予約の申込みを行う方法があります。そして、その翌日からインターネットによる予約の申込みができるようになります。そのため、地域センターに直接行く方法のほうが、優先して予約の申込みができるような仕組みとなっています。

インターネットシステムを活用し、地域センターの利用者の利便性を向上するというのであれば、現在の仕組みを見直し、地域センターに直接行く方法もインターネットを利用する方法も公平に予約が取れるように改善してほしいと思います。

【委員】

ご指摘いただいた点が改善されない理由として、地域センターに直接行って予約の申込みをするということに、やはり利用者側のニーズがあるのではないかと思います。そのため、インターネットシステムの仕組みが中途半端になっているのではないかと思います。

【部会長】

経常事業取組状況シートを見ると、利用者の利便性の向上ということが記載されていますが、実際には、インターネットシステムを利用しても利便性は向上していないということかと思えます。ですので、地域センターへ直接行く方もインターネットを利用する方も平等に扱うようなシステムを検討したほうが良いのではないかということとは言えるのではないかと思います。

経常事業305「地域センター受付システムの運用等」については、そのようなまとめ方でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

ありがとうございます。

では、ほかになれば、経常事業についての取りまとめは以上となります。

最後に、個別施策Ⅰ-8「地域の課題を共有し、ともに考え、地域の実情に合ったまちづくりの推進」について、意見の取りまとめをしていきたいと思えます。

まず、「総合評価」についてです。評価が「おおむね順調に進んでいる」、「やや遅れている」、「遅れている」に分かれています。「おおむね順調に進んでいる」と評価した委員から順番にご意見をお願いします。

【委員】

私は、「おおむね順調に進んでいる」と評価しました。

地域課題については、その課題は非常に多岐にわたるものであると思えますので、一朝一夕に結果が出るものではありませんし、それらの課題に対して地道に取り組み、少しずつ問題を解決していつているということは理解します。

また、町会・自治会活性化への新たな手段の一つとして、町会へのコンサルティングの導入を実施しています。コンサルティングの導入という手法を開始してまだ1年ですので、その成果を見ることはできませんが、今後、同様のケースが出てきた場合には、今回のコンサルティングの結果を応用できるような仕組みになることを期待したいと思います。加えて、せっかくコンサルティングを導入し町会の課題の抽出、分析を行ったのであれば、その取組が定着するまでの一定の期間については、継続してコンサルティングやフォローアップをしてほしいと思えます。

協働推進事業については、現在実施されている事業は、参加者の満足度も高く有意義に運営されていると思えます。今後は、事業に関連する所管課とも連携の上、地域活動にもいかされるよう取り組んでいくことを期待します。その一方で、区民の視点から見ると、現在実施されている事業は、あまり身近ではない事業が多いように感じたので、制度の精度を上げることも大事ではありますが、事業内容は小さくてもより区民に身近なテーマで実施されることを期待します。

【委員】

私は、「おおむね順調に進んでいる」と評価しました。

社会情勢が様々に変化している中で、地域としてある程度持続することができているのでは

ないかと思えます。地域としては、何とか課題を解決しながら、現在のコミュニティを継続するに至っていると思えますし、地域として安定しているからこそ、新宿区がきちんと動いているのではないかと思えます。

【委員】

私は、「やや遅れている」と評価しました。

個別施策名でもある「地域の課題を共有し、ともに考え、地域の実情に合ったまちづくりの推進」ということについて、地域の実情に合ったまちづくりや地域の実態の捉え方がよく見えなと感じます。

特別出張所の単位で見ても区内には10地区あり、地区ごとに複雑、多様化する課題があると思えます。地区ごとの課題を抽出するという必要ですし、地域課題の解決に向けて、区民が自治意識を持った行動をとるようになるための取組をどのように考えるかということが非常に重要であると思えます。

そのため、区としては、区民の自治の活動を支えるための助成金や場の提供、協働の取組を行っていますが、なかなか成果を上げることはできていません。その点についての根本的な課題として、地域課題に対する地域住民や地域団体の問題意識の希薄さや関心の低さということがあるのではないかと思えます。住民主体の自治という視点から見ると、主体である地域住民の役割に対する自覚不足があり、そのことに対する取組ができていないと感じます。

そのような状態の中で、区としては、町会・自治会の加入率を目標として設定しているのに、地域の実態と区取組の間にずれがあるのではないかと思えます。

【部会長】

私は、「やや遅れている」と評価しました。

個別の事業を見た場合には、各事業とも着実に進捗していると思えます。しかし、それらの事業を実施することにより何を指すのかという理念が明確ではないと思えます。そして、その結果、協力的な区民に対して、理解が十分に得られていないのではないのかと感じました。

新宿のような大都市においては、地域課題の解決ということが難しいと思えます。多くの区民は地域のことについて無関心な場合が多いという中で、協力的な区民の存在というものは貴重なのではないかと思えます。それにもかかわらず、そのような協力的な区民の理解が得られない状況というのは、極めて不幸な問題なのではないかと感じています。

無関心な区民に対する町会・自治会への加入促進や地域コミュニティ活動への参加の呼び掛けなどの取組も大事だと思いますが、関心があり活動的な区民がいるのであれば、その人たちの理解、協力を更に高めていくために、理念の明確化ということをしていかなければならないのではないかと思えます。

【委員】

私は、「遅れている」と評価しました。

町会・自治会は、地域課題に取り組もうとはしていますが、担い手不足という問題があります。そのため、積極的に地域課題の改善に取り組めない、住民との親睦、情報提供の場として

のみ機能している町会・自治会が多いのではないかと思います。そして、このような状況が続けば、担い手自体いなくなり、活動不全になる町会・自治会も増えていくのではないかと思います。

このような実情がある中で、町会活動については、きちんと見直しをしていく必要があります、その上で協力体制を築いていくということを考えていかなければいけないと思います。

一方、地域には多様な主体が存在し、NPOなどの地域団体と協働することが課題の解決策として実施されています。しかし、そのアウトカムが地域社会に反映され、地域課題の実質的な解決につながっていないと感じます。NPOなどの地域団体の事業が、地域社会とどのようにつながり実効性を持って実施されているのかということまでしっかりと把握した上で、事業に関連する所管課と情報共有するということがないと地域課題の解決に向けては実効性が無いと思います。

【部会長】

ありがとうございます。

評価は分かれています、その前提としての問題意識については、ある程度共通しているのではないかと思います。その上で、どのような評価とするのかということかと思いますが、各委員の意見を聞いて、いかがでしょうか。

【委員】

現状を考えて、少なくとも「やや遅れている」という評価をしないと、外部評価をする意味がないのではないかと思います。

【委員】

そうですね。

しかし、大きな目標に向けての取組というのは、一朝一夕に成果が出るものではありません。この1年間の取組だけで良い悪いということを決められるものではないと思いますので、努力して取り組んでいることは認めて、理解したほうが良いのではないかと思います。

【委員】

しかし、地区協議会の制度変更により、区民の意見を聞ける場というのは町会連合会ぐらいしかないという状況になっています。そのような中で、地域の課題を共有し、ともに考え、地域の実情に合ったまちづくりを推進することはできないのではないかと思います。

そのような状況がこの1年間で推進されてしまっている、私は、「遅れている」と評価します。「おおむね順調に進んでいる」という評価では、そのような状況をよしとしていることになってしまいますので、賛成はできません。

第3部会の評価として「やや遅れている」とすることについては、成果を上げている取組もあるので、異論はありません。

【委員】

私が一番問題だと思うことは、地域の実情に合ったまちづくりということの特色が見えない、地域の課題を共有していないということです。

地域の課題をどのように抽出するかということについては、特別出張所の存在が非常に重要なのではないかと思います。特別出張所の機能として、ある程度、各地域の課題を見ることができると思います。それらの課題の捉え方を安心・安全にするのか、福祉にするのか、防災にするのか、子育てにするのかということを経験していかないと、実情は見えてこないと思います。

【部会長】

個別施策の前提となる、地域の課題を共有するという点には至っておらず、地域の実情を把握していくための取組もあまりできていないのではないかと感じました。

事業として計画したものについては、着実に実施していますが、その事業自体が地域の課題に合っているかどうかという点、必ずしもそうではないということが問題ではないかと思います。

また、地域の課題をどのように捉えるのかということを示す成果指標についても、指標1「町会・自治会の加入率」、指標2「地域コミュニティ活動への参加率」など、やはり少しずれがあるのではないかと思います。つまり、地域のことについて無関心な人に少しでも関心を持ってもらうという形になっており、既に地域で積極的に活動する人たちの成果を捉えるような指標にはなっていないと感じました。

しかし、一定の取組をしっかりと実施していることは事実としてありますので、皆様のご意見を総合的に考えて、評価としては「やや遅れている」とする形でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

では、そのようにさせていただきます。意見については、今出た意見を中心にまとめていきたいと思います。

次に「取組の方向性に対する意見」についてです。順番にご意見をお願いします。

【委員】

加入促進と組織の構築に向けて、タワーマンションをはじめとする集合住宅に住む住民と地元町会・自治会との融合は大きな課題だと思います。その点について、町会へのコンサルティングを導入するという取組は、大いに期待したいと思います。

また、担い手である町会・自治会の役員はほとんどが高齢者という状況ですので、役員の活性化も並行して考えていく必要があると思います。

【委員】

町会へのコンサルティングの導入については、新たな手法として画期的だと評価したいと思います。しかし、そのコンサルティングの結果をどのように活用するかということが重要だと思います。今後、更に工夫して取り組んでほしいと思います。

【委員】

町会へのコンサルティングの導入については、町会の気づきと現状の整理ということに対して有効であると思います。その上で、地域を担う人材をどこに求めるかということがより重要になってくると思います。

また、若年層へのSNSを活用した情報発信について、区が支援をしていますが、町会・自治会の担い手の高齢化により、町会・自治会自体が若年層の取り込みに積極的に動いていないこと、町会・自治会が自らの存在意義について住民に十分に説明できていないことなどから、現状では有効な手法としてはあまり期待できないのではないかと思います。

区というより、地域自体がある程度変わっていかないと、どんなに頑張っても区の支援はあまり効果のあるものにならないのではないかと感じています。

【部会長】

ありがとうございます。

認識としてはこれまでの議論と同様だと思いますので、「取組の方向性に対する意見」については、今出たご意見を中心にまとめるような形でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

では最後に、「その他意見・感想」についてです。順番にご意見をお願いします。

【委員】

これまでの第3部会の議論を通して感じたことではありますが、外部評価委員会として個別施策を評価するという役割を担っている一方で、実際には、町会はどうあるべきか、地域はどうあるべきか、まちづくりはどうあるべきかという議論が中心となっており、外部評価委員会として議論すべき内容なのか少し疑問に思う点がありました。

そのため、今回第3部会の中で議論したようなことを、改めて話し合いの場として作るべきではないかと思いました。

【委員】

外部評価の役割として、区が実施した施策や事業について、内部評価を区民目線で評価するということがあると思いますが、その前提となる目標設定や理念が明確になっていない施策や事業を評価する場合には、その前提自体についてきちんと指摘していくべきではないかと感じています。そのため、今回の第3部会の議論においては、町会・自治会、地区協議会、地域の実情ということを話し合わなければいけないと思っています。

地域の担い手が誰なのかということを確認にしないまま、区は様々な事業を実施していると思いますが、その点をきちんと考えていかなくてはいけないと思います。区と区民が協議する場を検討していくとともに、地域の課題を解決する担い手をしっかりと確保していく必要があると思います。

【部会長】

ありがとうございます。

共通している意見として、話し合いの場というものが欠けているのではないのかということがあると思います。その前提として、新宿区自治基本条例に基づく地域自治組織が棚上げになっている状況があり、そのために、地域の課題を共有する、検討する場がないのではないかと感じました。

では、「その他意見・感想」については、今出たご意見を中心にまとめるような形でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

ありがとうございます。

個別施策Ⅰ－8「地域の課題を共有し、ともに考え、地域の実情に合ったまちづくりの推進」の取りまとめは以上となります。

外部評価意見については、ただ今ご議論いただいた内容を踏まえて、部会としての評価、意見をまとめさせていただきます。記載内容については、部会長である私にご一任くださるようお願いいたします。

それでは、本日の部会は以上で閉会とします。

お疲れさまでした。

<閉会>